

クロアチア情勢

主な出来事

2015年11月

内政

- 5日、議会選挙前の現政権最後の閣議開催。ミラノビッチ首相は、全閣僚に対し、政権任期4年間の職務への賞賛と感謝を述べた。
- 8日、クロアチア議会選挙投票日。翌9日、国家選挙委員会は、今次選挙の7投票所(第4, 第5, 第7選挙区各1投票所および第9選挙区の4投票所)における投票のやり直しを発表。右投票所における再投票は、15日に実施されることとなった。
- 12日、エルドウト(当国東部)において、「エルドウト合意(東スラボニア、バラニャ、西スリエム地域に関する基本合意)」署名20周年記念式典開催。グラバル＝キタロビッチ大統領の特使としてブルキッチ・オシエク市長、バウク行政相、プポバツ・セルビア民族評議会(SNV)議長(議会外交委員長)らが出席。
- 15日、第4, 第5, 第7選挙区各1投票所および第9選挙区の4投票所の計7投票所で議会選挙のやり直し投票実施。翌16日午後3時、国家選挙委員会は、今次議会選挙の公式結果を発表(野党連合「愛国同盟」:59議席、与党連合「成長するクロアチア」:56議席、MOST:19議席、イストラ民主会議(IDS)ープリモリエ・ゴラン同盟(PGS)連合:3議席、スラボニア＝バラニャ・クロアチア民主連盟(HDSSB):2議席、バンディッチ連合:2議席、人間の壁:1議席、「成功するクロアチア」:1議席、少数民族枠:8議席)。
- 16日、ミレティッチIDS党首は、IDS幹部会を開催し、今次議会選挙で当選した3名の同党党員のSDPへの支持を決定。
- 17日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、シュカブルリャ(紛争中の1991年11月18日、当国東部の同地で84名のクロアチア人(内58名が一般市民)が旧ユーゴ軍およびセルビア人武装勢力に殺害された)を訪問し、紛争犠牲者の合同墓地に献花し、犠牲者に敬意を表した。
- 18日、当国東部ブコバル市において、「ブコバル市紛争犠牲者追悼式典」開催。グラバル＝キタロビッチ大統領、ミラノビッチ首相、レコ議会議長、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相他閣僚らが出席。
- 23日、議会選挙後にMOSTから除籍されたプルゴメト新議会議員(前HDZ副党首)が、新党「HRID」を結党、同氏が党首に就任。同党には、MOSTから当選していた2名の女性議員が入党した。
- 24日、フルバティン国家選挙委員会委員長(兼最高裁判所長官)は、本年実施の議会議員選挙の最終公式結果をグラバル＝キタロビッチ大統領に手交。同日、官報に結果が掲載された。

- 24日、ザグレブ県裁判所は、サナデル元首相に汚職容疑のある「プラニンスカ通り事件(注)」の公判を実施。3名の元大臣(シュケル元財務相、ヤンドロコビッチ前外相、ビシュクビッチ元文化相)が参考人として当時の状況を証言した。(注:2009年、サナデル元首相はチョバンコビッチ地域開発相(当時)にプラニンスカ通りにあるビル購入を指示し、右は実勢価格よりも高額な値段で取引された。後に右ビルの所有者がサナデル元首相に近いHDZ所属の議会議員(当時)であると判明し、上乗せされた金額および賄賂がサナデル元首相に渡ったとされる事件。第1審係争中。)
- 25日、ザグレブ県裁判所は、前(24)日、憲法裁判所がサナデル元首相に対する捜査拘留からの保釈を決定したことを受けて、同元首相をレメティネツ刑務所から保釈する旨決定。同日夕、同元首相は出所した。
- 26日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、今次議会選挙で議席を獲得した各党党首と首相候補補を決定するための第1回協議を実施。新議会の初招集を12月3日とする旨発表。
- 30日、今次議会選挙で少数民族枠より当選した独立民主セルビア党(SDSS)所属のラシュコビッチ議員(シベニク・クニン県副知事)が、同党を離党。

外交

- 2日、ミラノビッチ首相は、リュッケトフト第70回国連総会議長宛に、次期国連事務総長選挙へ立候補しているプシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相を支持する旨の書簡を発出。
- 3日、スラボンスキ・ブロード(当国東部)に冬用の難民受入れ施設開設。クロアチアおよびセルビア内相の合意に基づき、セルビアのシッド(同国北西部)から同地まで、列車による難民の直接移送が開始された。
- 3日、クロアチアおよびアルバニアの両国保健相は、2015－18年の保健・医療分野での協力計画に署名。プライマリー・ヘルス、保健教育および科学研究、医療ツーリズム、緊急医療サービス、移植等の分野での協力を行う。
- 5日、クロアチア海軍艦艇「アンドリヤ・モホロビッチ」(海軍兵49名および国境警察官5名)が、3か月に亘る地中海におけるEUの海上監視ミッション「トリトン作戦」を終え、スピリトの海軍基地へ帰還。ミッション参加中、同艦艇は約2,500名の難民・移民を救助した。
- 7日、欧州委員会は、大量の難民流入問題への対応のため、クロアチアに1,643万ユーロの緊急支援を決定。
- 12日、ミラノビッチ首相は、移民・難民危機を協議するEU・アフリカ首脳協議(バレッタ・サミット)および非公式欧州理事会に出席のため、マルタ・バレッタを訪問。
- 12日、外務・欧州問題省は、駐クロアチア・スロベニア臨時代理大使宛に、スロベニアがクロアチアとの国境沿いに設置を始めた難民流入を防止のための有刺鉄線の一部が、ハルミツァ国境検問所およびブレガナ・ナセリエ国境検問所付近のクロアチア領域内(ドウブラビツェ町)に違法に設置されたとして抗議書簡を発出。右フェンスの撤去を要請。また、20日、右フェンスが撤去されていないことから、外務・欧州問題省は再度抗議書簡を発出した。さらに、26日、外務・欧州問題省は3度目となる抗議書簡を発出。

- 12日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、11月25日にクロアチアで開催される「ブルドー・ブリュニ・プロセス」特別首脳会合に向けて、ザグレブにおいてパホル・スロベニア大統領と準備会合を実施。22日にも、両大統領はリュブリャナにおいて同会合を実施。
- 13日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、杜青林・中国共産党中央書記処書記兼全国政治協商会議副主席率いる一行と会談。
- 16日、クロアチア政府は、同日を13日にパリで発生した連続テロ事件の犠牲者を追悼する国喪の日とする旨宣言。当日は、政府関係機関の国旗を半旗とし、正午にサイレンを鳴らして黙祷を捧げた。
- 19日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、アトランティック・カウンスル(米シンクタンク)主催「エネルギー・経済サミット」出席のため、イスタンブールを訪問。また同日、エルドアン・トルコ大統領と会談した。
- 19日、国防省は、米軍から16機の中古ヘリコプター(OH-58D Kiowa)の無償提供を受けた旨発表。
- 19日、オストイッチ内相が、今後クロアチアは、戦争地以外から流入する「経済移民」を受け入れないとする方針を発表。
- 20日、オストイッチ内相およびミリエニッチ司法相は、ルクセンブルクで開催されたEU臨時司法内務理事会に出席。
- 22日、ユネスコの世界ジオパークにパプク国立公園(当国東部)が登録。
- 24日、ミラノビッチ首相は、当地訪問中のトゥスク欧州理事会議長と会談。
- 24日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、第7回南東欧外相会合(独および伊外相主催の下、クロアチア、アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ、マケドニア、モンテネグロ、セルビアの外相が出席)に出席のため、ベルリンを訪問。
- 24-26日、レコ議会議長は、第4回中欧・中国(16+1)首脳会合および第5回中国・中東欧経済・商業フォーラム出席のため、中国・蘇州および北京を訪問。また、訪中に際し、李・中国首相(25日)、習・中国国家主席(26日)および張・全人代常務委員会委員長(26日)らと会談した。
- 25日、ザグレブにおいて、「ブルドー・ブリュニ・プロセス」特別首脳会合開催。グラバル＝キタロビッチ大統領、パホル・スロベニア大統領および南東欧地域各国首脳の他、域外国よりバイデン米副大統領、フィッシャー・オーストラリア大統領、トゥスク欧州理事会議長が出席。会合終了後、出席者全員が署名した「結論文書」が発出された。
- 25日、ミラノビッチ首相およびプシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、当地訪問中のバイデン米副大統領と会談。
- 29日、ミラノビッチ首相は、EU・トルコ首脳級会合出席のためブリュッセルを訪問。
- 30日、ミラノビッチ首相およびズマイロビッチ環境相は、パリで開催された第21回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)に出席。

経済

●5日、欧州委員会は、クロアチアの経済成長率について2015年を1.1%（前回5月時点より0.8%上方改定）、2016年を1.4%、2017年を1.7%とした予測を発表。内外需の拡大が見込まれるためクロアチア経済の成長が加速するとしている。

●5日、欧州復興開発銀行は、クロアチアの経済成長率について2015年を0.9%（前回5月時点より0.4%上方改定）、2016年を0.5%（前回と同値）とした予測を発表。財政調整圧力が継続するため、翌年の成長率は鈍化すると予測。

●16日、クロアチア統計局は10月の消費者物価指数を公表。前年同月比▲0.9%となり4ヵ月連続で前年の水準を下回った。

●17日、クロアチア中央銀行は、一部銀行がスイス・フラン建てローンのユーロへの変換に際して設定した（同変換が憲法裁判所で違憲とされた場合、同変換を無効とする）条項について削除するよう銀行側に命じた。

●27日、クロアチア統計局は2015年7－9月期の実質GDP成長率速報値を公表した。今年第3四半期は対前年比で2.8%となり、4四半期連続のプラス成長となった。右成長の主な要因は、家計最終消費支出及の伸びおよびサービスの輸出（観光収入）増による。

主要経済指標

（2015年月次データ、対前年同期比（除く失業率）、政府統計局発表）

輸出総額 （9月）	輸入総額 （9月）	貿易赤字 （9月）	工業生産高 （10月）	インフレ率 （10月）	失業率（登録制） （10月）
+11.2% （645 億クーナ、 84.7 億ユーロ）	+6.4% （1055 億クーナ、 138.5 億ユーロ）	-0.3% （410 億クーナ、 53.8 億ユーロ）	+6.4% （9月：5.4%）	-0.9% （9月：-0.8%）	17.2% （9月：16.5%）

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものです。記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。